



The Y's Men's Club of Sendai

仙台ワイズメンズクラブ 2018 年 1 月報

- 国際会長主題 「ともに光の中を歩もう」
- アジア太平洋地域会長主題 「ワイズ運動を尊重しよう」
- 東日本区理事主題 「広げよう ワイズの仲間」
- 北東部長主題 「距離に負けるな北東部 クラブの個性を磨こう」
- クラブ会長主題 「クラブ ファースト」

会 長 横倉 純
 副 会 長 今澤智代
 書 記 佐々木絹子
 会 計 田中京子
 メネット会長 田村成子
 担当主事 鈴木陽子

仙台クラブ事務所 : 〒980-0822 仙台市青葉区立町 9 番 7 号 仙台YMCA内
 仙台クラブ Facebook: <https://www.facebook.com/sendaiys/>

<今月の聖句>

「新しい歌を主に向って歌え。主は驚くべき御業を成し遂げられた。右の御手、聖なる御腕によって主は救いの御業を果たされた。」

詩編 第98編1節

1月の例会(合同例会)

日 時 : 1月26日(金)

18:30~20:45

会 場 : 石巻グランドホテル

石巻市千石町2-10

会 費 : 5,000円

(メン・メネット共)

12月例会報告

在籍者	17名
出席者	10名
メイキャップ	0名
ゲスト・ビジター	3名
メネット・コメント	1名
出席率	58.8%
ニコニコ	10,515円



巻頭言 「クルマ社会」

阿部 靖

クルマを捨ててこそ、地方は甦る、「私の町ではクルマが必需品は勘違い！」

私は最近偶然に本屋さんで上記のような題の本を見かけ、面白そうだなと思い買ってみた。考えた事もなかった題なので、どんな事が書いてあるのかなと思って読んで見たら、こんな考えもあるのかと驚いた。著者の藤井聡氏は1968年奈良県生まれ、京都大学教授(都市社会工学専攻)である。

曰く、東京や大阪の都心なら「クルマ」がなくても生活できる。たいていの所には電車で行けるし、お店やレストランはどこにでもある。しかし地方では地下鉄も私鉄もないし、バスはあっても、1時間に数本程度だ。買い物も、通勤もクルマが当たり前、クルマがなければ、生きていけない。移動手段の7~8割り以上が車移動だ。しかし今地方が疲弊している主な原因は、地方が「クルマに依存しきっている」という点にあることは殆ど知られていない。

皆がクルマばかり使っていれば、鉄道はどんどん寂れていって、駅前商店街もダメになっていく。つまり地域の地元商業や公共交通産業に大きな打撃を与える。

クルマ社会化が進めば、郊外の大型ショッピングセンターは大流行(大はやり)になるが、これらは「地元外の資本」でつくられたお店で、利益の大半は地元には戻ってこないで、東京や大阪などの大都

市に吸い上げられる。著者の調べでは、地元の商店で使ったオカネの5~6割が地元で還元されるが、大型ショッピングセンターでの場合は1~2割しか還ってこない。住民が一生懸命働いて稼いだオカネが地域外に流出し、地域経済はますます疲弊していく。地域産業や経済が衰退すれば、地元の自治体に納められる税金も少なくなり、行政サービスも劣化していく。地方ではクルマが当たり前という「常識」が地方を疲弊させているのだ。「部分的」にでも「脱クルマ」の要素を導入し、どうすればクルマと「かしく」つきあっていけるかを、じっくりと考えなければならない。

第1章 道からクルマを追い出せば、人が溢れる。

- ① 「歩行者天国」という成功モデル：道路といえば、クルマのためのものだ、というイメージが強い。実際、両脇に申し訳程度に白線を引いて、その外側だけが歩行者のもの、残りはすべてクルマのためのものというのが一般的だ。しかしこの道路をすべて人に解放したのが「歩行者天国」だ。広い道路が人で埋め尽くされる。大量の買い物客を呼び込むことに成功する。そもそもクルマが走っている道路は危ない場所だ。クルマを締め出せば、その道路は「楽しい空間」に生まれ変わる。そして人が集まり、賑わいがある所になる。人は、この「賑わい」が好きなのだ。
- ② その道路がクルマにとって重要である場合は車道の一部を削って歩道を広げ、道路から一部のクルマを締め出せば、やはり「人を呼び込む」効果がでる。京都の「四条通り」がその典型例だ。歩行者が増えれば、沿道の商店の売上高も増える。地価公示価格も上昇していく。
- ③ このような歩行者を大事にする効果は、銀座、新宿、京都だけでなく、人口が30~40万人程度の日本のどこの街においても現れる。街の中心部の「一等地」からクルマを追い出せば、人の賑わう場所が変わる。クルマを捨て去る姿勢を持って街づくりに臨むことが、街の再生のために必要不可欠なのである。

第2章 クルマが地方を衰退させた。

- ① クルマ社会が「シャッター街」をもたらした。地方都市の商店街では、どんどん客が減り、つぶれてシャッターを閉める店が多くなった。地方の人は前述のように郊外のショッピングセンターで買い物をしている。何故人々が商店街でなく、郊外の大型ショッピングに行くか、それは品揃え、価格などが違うという事が一つ理由ではあるが、もっと重大な理由は、皆が「クルマを使うようになったからだ」。大型のショッピングセンターの建設には広い土地が必要だから、郊外の広い田畑を買って建築する（最近の農業離れで田畑を売りたい地主が多い）。もし皆がクルマを持っていなければ、郊外のショッピングセンターに買い物に行かないが、クルマさえあれば、街中へ行く時のような渋滞の心配なしに、簡単にいける。大型のショッピングセンターには広い駐車場もあるので、地方の人々の消費を、まるで「バキュームカー」のように吸い上げる。こうして街の中心部のシャッター街化が進行した。
- ② 街が郊外に広く薄く「溶けだしてしまふ」。皆がクルマを使うことを「モータリゼーション」というが、これは街の中心部を空洞化し、様々な施設が郊外へと無秩序に拡散していく。こうした現象は郊外化と言われている。様々な商店や飲食店が道路に沿って、どんどん郊外化していく。住宅の立地について考えても、クルマを使う人は郊外に住む可能性が高くなり、クルマを持たない人は町なかに住むことになる。
- ③ シャッター街化すれば、そこでは働けない、バス路線が撤退すれば運転手も事務員も必要なくなる。こうして地方から大都会へ人口が流出する。

- ① 税収減で行政サービスが劣化する。（前述）

第3章 クルマを締め出しても、混乱しない。

車線を削って歩道を広くしても混乱は一時期のみ。

第4章 道にLRTをつくって地方を活性化（省略）

第5章 クルマの利用はほどほどに。（省略）

第6章 （終章）クルマと「賢く」つきあうために。

本来クルマが入ってクルマ来るべきでない領域と、クルマが活躍すべき領域を明確に線引きし、その両領域の接続を円滑化することが重要だ。クルマ入ってくるべきでない領域とは「街の中心



部」だ。そこには施設が密集しており、利用者も多い。そこに皆がクルマでアクセスすれば、大渋滞が起こる。一方で街の中心部以外は施設も利用者の密度も低い。だからクルマでアクセスしても問題はない。

それ故に、理想的なクルマと都市の付き合い方は、街の中心部からはクルマを可能な限り排除し、その周辺部に環状道路や大型の駐車場を整備するというものだ。街に来る人はその駐車場までクルマで来て良いが、人の家にかかる時には靴を脱ぐように、クルマをおいて、電車かバスで、街の中心部にアクセスする。そうすれば、街の中心部は歩行者天国に近くなり、人で溢れるようになる。勿論街の中心部の商店には「物流」のシステムとの接続が必要だ。今、歩行者天国の商店がしているように、時間帯を区切って物流トラックの流入を許可する必要がある。

その次に重要なのは「人とクルマとの賢い付き合い方である。今まで述べてきたような交通街づくりを進めても、皆が「やはり、私はクルマに乗りたい。だからクルマが便利な郊外に住む」という判断をすれば、結局コンパクトシティは出来上がらない。そうならないためにも、人々の「クルマに頼りすぎない暮らし」がどうしても必要となる。周りに商店やレストランがあるのに、わざわざクルマに乗って、大きな駐車場のある店に行く人は、日本中で夥しい（おびただしい）数に上るだろう。1～2割程度は「クルマでなくてもいい移動」があることは、わかっている。その1～2割を歩けば、健康にも、地域経済にも良い。

クルマは近代文明が発明した最高に便利な「文明の利器」だ。しかし、その使い方を誤れば、私たちの社会も経済も個人の豊かな暮らしも破壊しかねない「劇薬」なのだ。私たちは20～21世紀にかけて、この劇薬の使い方を誤ってしまったようだ。21世紀後半からこの劇薬を上手に使いこなすように、オールジャパンで考えなければならない。

1月の強調月間「IBC/DBC」

「IBC」(International Brother Club) 国際兄弟クラブは特定のクラブ同士が外国のクラブと兄弟クラブとなる約束をし、永続的な交流を続ける事です。それにはクラブ同士が事前に十分な準備を行い、国際IBC事業主任の認証を得た上での交流を行う事です。「DBC」(Domestic Brother Club) 国内兄弟クラブは国際兄弟クラブにならい、国内の特定のクラブ同士が兄弟クラブとなる約束し、交流を続けることです。また東日本区、西日本区の発足により東西の締結が促進されています。

12月例会報告

日 時：2017年12月19日（火）19：00～21：00

会 場：仙台YMCA会館3階 サービス実習室

出席者：牛尾・小幡・工藤・鈴木・佐々木・高松・田中・田村メネ・中川・横倉・吉田

ゲスト：加藤雄一さん・竹田弥生さん・堂崎文菜さん

<例会模様>

会場は昨年と同じく仙台YMCA立町会館3階のサービス実習室。今回はピザとチキン、それに中川ワイズから献品されたジャガイモ、カボチャを佐々木ウィメンの腕にて素材を存分に生かされた料理がテーブルに盛られました。ゲストにホテル製菓専門学校に加藤雄一校長、西中田保育園の竹田弥生さん、南大野田保育園の堂崎文菜さんの3名をお招きした。

佐々木ウィメンの司会にて開会、一部は礼拝。黙禱の後、讚美歌109番「きよしこの夜」を斉唱、聖書朗読と続き、鈴木陽子さんから「米国のクリスマス」と題し感話を受ける。



“26歳の時にワーキングホリデーで1年間オーストラリアで過ごした体験が忘れられず、再度海外に行きたく、35歳の時にネット検索により海外でボランティアができる機関を探して応募、簡単な英語のインタビューをクリアし渡米しました。赴いたのはポートランドで有名なアメリカ西海岸にあるオレゴン州、日本の気候とよく似たフィロマスという田舎町でした。ホームステイ先はモルモン教を信仰する4人の子どもがいる6人のファミリー宅。お世話になった夫婦は私より1歳年下でした。赴任した学校は幼稚園から高校までの13学年、当時は全校生徒120名ほどの小さな学校で、そこで主に月に1回程度の選択授業で日本の文化についての授業を行いました。クリスマスですが、日本では恋人や友人



人たちと祝うことが多いと思いますが、米国では家族で祝うのが当然の習わしで、そこでも文化の違いを感じました。アメリカも日本と同じで、クリスマスのお祝いの仕方は各家庭それぞれですが、ホームステイ先では、先月のプリテンでも紹介したように、本物の松の木を買ってきて飾りつけをしていました。そして、プレゼントは何週間も前から探し求めて押し入れに隠して置き、クリスマスが近づくと両親と私で夜中までかかってラッピング作業を行い、ツリーの下にセティングしました。クリスマス当日、子どもたちは朝を待ちきれず、夜明けとともに起き、プレゼントを一人ずつ開けてお披露目をします。食事はターキーやパイをオーブンで焼いて盛りつけます。アメリカ人はレモンが大好きで、どんな料理にでもレモンをかけるのが、とても印象に残っています。子どもたちは「お菓子の家」のキットを買ってもらい、組み立てて飾り、クリスマスに食べていました。甘いもの、カロリーが高いものも多く、少々太って帰国しました。貴重な体験ができたことに感謝しています。” と思い出を聞かせて頂きました。お祈りの後、讃美歌112番「諸人こそぞりて」を斉唱、黙とうをし、礼拝を終えました。

二部祝会。司会は引き続き佐々木ウィメン。横倉会長の開会点鐘、ワイズソング、ワイズの信条、会長挨拶では「今月プリテン、岡さんの素晴らしい巻頭言を是非読まれてください。また、工藤さんに頼ってきた使用済み切手整理、皆さんで継続していきますので、ご協力よろしくお願いします」と述べられた。ゲスト紹介があり、小幡ワイズの食前感謝の後、田村メネット差し入れのシャンパンにて「カンパニー！」。

それぞれ持参された食べ物、飲み物に舌鼓を打ちながら、しばし歓談の後、恒例のオークション。クリスマス例会には、皆さんが期待をしている牛尾ワイズメンが今年もしっかりと出席され、賑わいの中心となり、佐々木ウィメンの軽妙な捌きにて貴重な献品の数々を皆さんの協力により完売に。お買い上げ額は27,400円でした。この売上金に加算され10万円を国際地域協力募金に献金されます。

連絡報告、ニコニコと続き、田中会計から「皆さん風邪など惹きませんよう注意され、良い新年をお迎えください。」と閉会挨拶があり、閉会点鐘となりました。

ニコニコ10,515円。

他クラブプリテン紹介（抜粋）下田クラブ2017年10月号より （ラジオ礼賛論）「私の恋人…それがラジオ」

書記 土屋 恒夫

(1) ラジオと言えば、今ではテレビ・パソコンにすっかり主導権を奪われ、その存在すら忘れ去られたかのような。だが、私の場合これは全く当てはまらない。幼少の頃から、現在に至るまでラジオは常にそばにあった。ラジオはわが人生の 伴走者であり、心の支えなのだ。小学生の頃は相撲中継や

ラジオドラマ（笛吹童子・紅孔雀等）に熱中し、学生時代には語学番組（大学受験ラ ジオ講座・NHK 英語会話他）を活用して学力を養った。さらに社会人としてはON時代の野球放送・歌謡番組・NEWS 等、娯楽・教養の両面にわたりラジオの恩恵に浴した。シニアとなった現在は「ラジオ深夜便」が友達だ。

- (2) 以前は気になっていたラジオの noise（雑音）も、ネットラジオの出現ですっきり解消、クリアな音声で聞けるようになったのが大きい。ここは素直にパソコンに感謝したい。
- (3) 2017年4月より、私は1年間の契約で伊豆総合高校・土肥分校の非常勤講師を務めている。その通勤途上でカーラジオ（実践ビジネス英語等）をじっくり聞けるのが楽しみだ。10月12日午前のNHK第二放送の番組は圧巻だった。「ラジオ仕事学のすすめ」（人生哲学的仕事論＜講師は政治学者・姜（かん）尚中（さんじゅ）氏＞）を皮切りに、「朗読の時間…夏目漱石・坊ちゃん」そして「カルチャーラジオ・文学の世界」とまさにラジオの真髄に触れて、一人至福な時間に浸った。
- (4) ラジオにはもう一つの効用がある。それは規則正しい生活を保証してくれることだ。私の一日は毎朝6時半からのラジオ体操；5分後のラジオ英会話でキックオフする。この生活リズムは心身の健康に直結、目下病院・薬と無縁である。今後もラジオを信じ、文武両道の人生行路を歩んで行きたいと思う。静かな思索の時を与えてくれ、なお且つ quality of life（生活の質）を高めてくれるラジオに乾杯！

2017.10.15 記

わたしの好きな言葉 「3かん」

田村 成子

「3かん」とは ①関心を持つ ②感動する ③感謝（ありがとう）する ある人がTVで言っていた言葉です。なるほどと思い記憶していた言葉です。だんだん年を重ねる事に、この「3かん」が必要かなと思うこのごろです。



1月第2例会報告

日時：2018年1月9日（木） 19:00～20:30

会場：仙台YMCA立町会館 2階 カフェ実習室

出席者：鈴木・田中・田村メネ・中川・横倉・吉田

① 1月新年4クラブ合同例会について。

日時：1月26日（金）18:30～20:45 <18:15まで会場へ直行にてOK>

会場：石巻グランドホテル 石巻市千石町2-10 TEL0225-93-8111

会費：5,000円（メン・メネット共）

内容：石巻希望ゴスペルクワイヤーズの合唱、その他

交通：仙台駅東口バスプールからYMCAのバスが出ます。16:45まで集合下さい。

尚、仙台クラブのアピールは「70周年記念祝会開催」について、及び「♪ふるさと は今も変わらず」（新沼謙治）を合唱する。

② ワイズ・YMCA維持会員・YMCA職員合同研修会&親睦会の開催について。2月11日（日）研修9:00～東京エレクトロンホール宮城、親睦会17:30～スマイルホテル3階「シェルブール」、会費2,000円。（どちらかのみでも結構です。不明の点はお問合せ下さい。）

- ③ 2月17日（土）のホテル専門学校生による「模擬披露宴」への出欠連絡については各自で行うこととする。
- ④ 1月東日本区ニュース（理事通信）の内容を確認した。尚、次期国際役員投票、及び、後期半年報報告については処理済。
- ⑤ 来年（2019年）7月に仙台で開催される第28回アジア太平洋地域大会の第1回準備委員会報告を資料に基づき横倉会長から受ける。尚、26日の合同例会にて意見交換の場があります。
- ⑥ 国際地域協力募金の街頭募金報告受ける。尚、牛尾会員より個人献金があった。次回の委員会は1月23日（火）に開催される。確認。
- ⑦ 次期クラブ会長に中川ワイズが推薦され、多忙により辞退されたが、皆さんからたっただけのお願いになり、お引き受け頂くことになる。尚、70周年記念祝会実行委員長は選任検討中。
- ⑧ 各自持参している使用済み切手整理分を2月第二例会日までに鈴木担当主事まで届けて下さい。



2月の主な予定

日 程	内 容
2月5日（月）	クリスマス委員会 19：00～
2月8日（木）	国際地域協力募金委員会 19：00～
2月11日（祝）	全体職員研修会 於：東京エレクトロンホール宮城 9：00～ 維持会員親睦懇親会 於：スマイルホテル仙台区分町 17：30～
2月28日（水）	ピンクシャツデー

編集後記

インフルエンザが大流行。学級閉鎖になり、YMCAの学童では午前中から小学生の賑やかな声が聞かれる日が多くなってきました。うがい、手洗いをしっかりとしなくてはなりません。今シーズン、私は既に2回ほど風邪を引いてしまいました。皆様もお気をつけください。（Y. S）

